

私立大学情報教育協会
平成 21 年度第 2 回サイバー・キャンパス・コンソーシアム
教育専門系グループ運営委員会 第 2 回 議事録

I. 日 時：平成 21 年 7 月 30 日（木） 16：30－18：30

II. 会 場：私立大学情報教育協会事務局会議室

III. 出席者：難波（司会）、三尾（議事録係）、竹熊
井端事務局長、森下、恩田

議題

1. 事務局より

(1) 本日の配布資料の確認がされた。（詳細は、配布資料を参照のこと）

委員より、資料(3)「Education studies 2007」の簡訳について解説があり、意見交換を行った。特に、「教育学の特徴と範囲」について、現在本部会で作業している「教育学」学士力にも参考になるものであることが確認された。

2. 協議：学士力の詳細設計について

(1) 共通の到着目標をイメージしたコア・カリキュラム、到達目標、測定手段の検討について

・第 1 部で作成した案について、意見交換を行った。

・以下は、その主な論点を挙げる。

①「教育学」の学士力 1『学びの意義と教育の必要性を論理的、分析的に理解できる。』の到達目標と測定方法の案についての検討では、“論理性”を如何に評価するのかについて具体的な方法が大学教員にわかるようにする必要があるという意見があり、実際に評価する方法や場面を想定できるように、到達目標と測定方法を修正した。

②「教育学」の学士力 2『意欲と能力に応じた学びに配慮した教育をデザイン（設計、実施、評価、改善）できる。』の到達目標と測定方法の検討では、用いる単語の適切性について詳細な検討を行った。例えば“学習者”が本分野で学ぶ教育の対象を指すだけでなく学生自身も学習者であるという点で到達目標の文言を修正するなど行った。

③「教育学」の学士力 3『教育が直面する課題や問題に自らが積極的に関心を持つことができる。』の到達目標の案について、目標が高すぎることはないかと学士力 1 と重複性について意見が出され、詳細な検討を行った。

④「教育学」の学士力 4『教育学を学んだ者としての責任と義務について、その重要性を自覚できる。』については、具体的な測定方法について詳細な検討が行われた。

・コア・カリキュラムの例示については、科目名とするとその解釈が多様であるので、それらの領域名に留めることとし、修正した。

(2) 今後の活動について

・コア・カリキュラムについて、再度検討を行うこととした。

・ネットを通じて「本協会委員会による（教育学）の学士力（試案）」として、本協会会員へ送信し、意見を聴取することとした。

3. 配布資料

第 2 部

(1) 運営委員会次第

(2) 前回会議議事録（平成 21 年 6 月 26 日開催）

(3) 「Education studies 2007」の簡訳（作成竹熊先生）

(4) 「教育学学士力」到達目標の設計（案）

次回委員会日程

11 月 2 日（月） 14：00 から 16：00 まで

以上